

「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」 中間評価結果

大学名	筑波大学
-----	------

(総括評価) A	これまでの取組状況を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
--------------------	--

(コメント)

開かれた大学として「国際性の日常化」を目指す中で、学長直属の「国際化推進委員会」と専任の国際化担当副学長を置いて本事業を実施しており、計画全体としては順調に進んでいることは、高く評価できる。また、グローバル30に採択されたことを契機に開始された種々の新しい取組み(産学官連携によるグローバルリーダー育成の取組み等)も順調に推移しており、外部有識者による外部評価委員会を設け、国際化推進に対する評価・意見を取り入れている点も評価できる。受入留学生数、外国人教員の採用数は目標値を上回る実績があがっている。

なお、中央アジアおよび北アフリカの拠点については、これまで比較的日本への関心が薄かった地域に対し、留学フェアを開催する等の成果を上げたが、政情不安や円高など、当初予想し得なかった新たな事態が起こっており、今後、学長のリーダーシップの下、当初の目的達成を目指したより一層の努力が望まれる。

グローバル30で採用された教員が積極的にカリキュラム等の策定に関わっており、全体的な学生の満足度が高い点も大いに評価できる。また、統一項目でのシラバスの作成や公開、成績評価におけるGPA導入を前提にした検討、外国人教員の協力のもと米国の成績評価基準を参考にした成績評価の試行、学生授業評価結果の各教員へのフィードバックなど継続的な教育の質の確保や向上への取組がなされており、こうした取組が満足度の高さに繋がっていると考えられる。今後は、日本人教員が英語による授業を行う上での研修についても、より一層の充実が望まれる。

また、留学生を対象とした日本語・日本文化等の授業については、様々な科目が用意されている点は評価できるが、今後、学生のニーズにより合致した履修スケジュールを検討するとともに、グローバル30で開講されている科目については、日本人学生の履修をより一層推進する必要がある。